
2013年3月期 決算説明会

株式会社ダイヘン

2013. 6. 5



P1

2013年3月期（2012年4月～2013年3月）

【 実 績 】



P2

業績サマリー

(単位：億円)

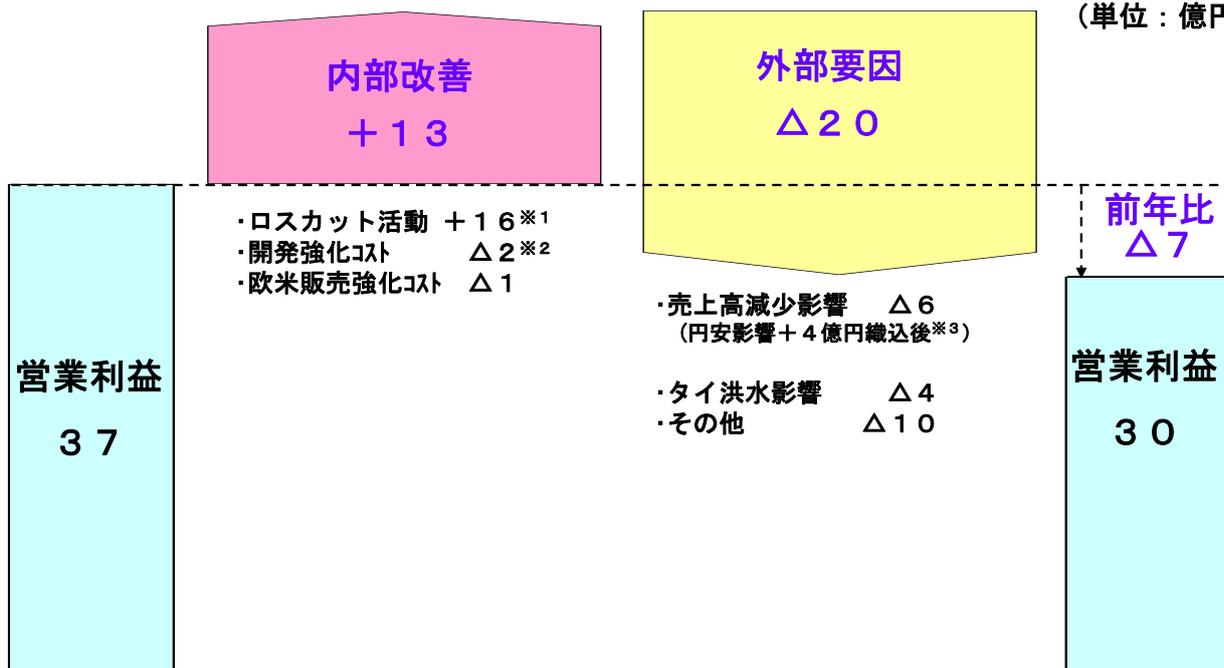
	2012年3月期		2013年3月期		前年度比	
		実績		実績		増減率
売上高		930		914	-16	-1.7%
電力機器		477		500	+23	+4.7%
溶接メカトロ		319		326	+7	+2.2%
半導体機器		131		85	-46	-35.1%
営業利益	4.0%	37	3.3%	30	-7	-19.4%
経常利益	4.3%	40	4.0%	36	-4	-9.1%
当期純利益	2.3%	21	2.6%	23	+2	+11.3%

DAIHEN

P3

営業利益変動の主な要因

(単位：億円)



2012年3月期

2013年3月期

※1. ロスカット活動の成果：2012年3月期 4億円→2013年3月期20億円

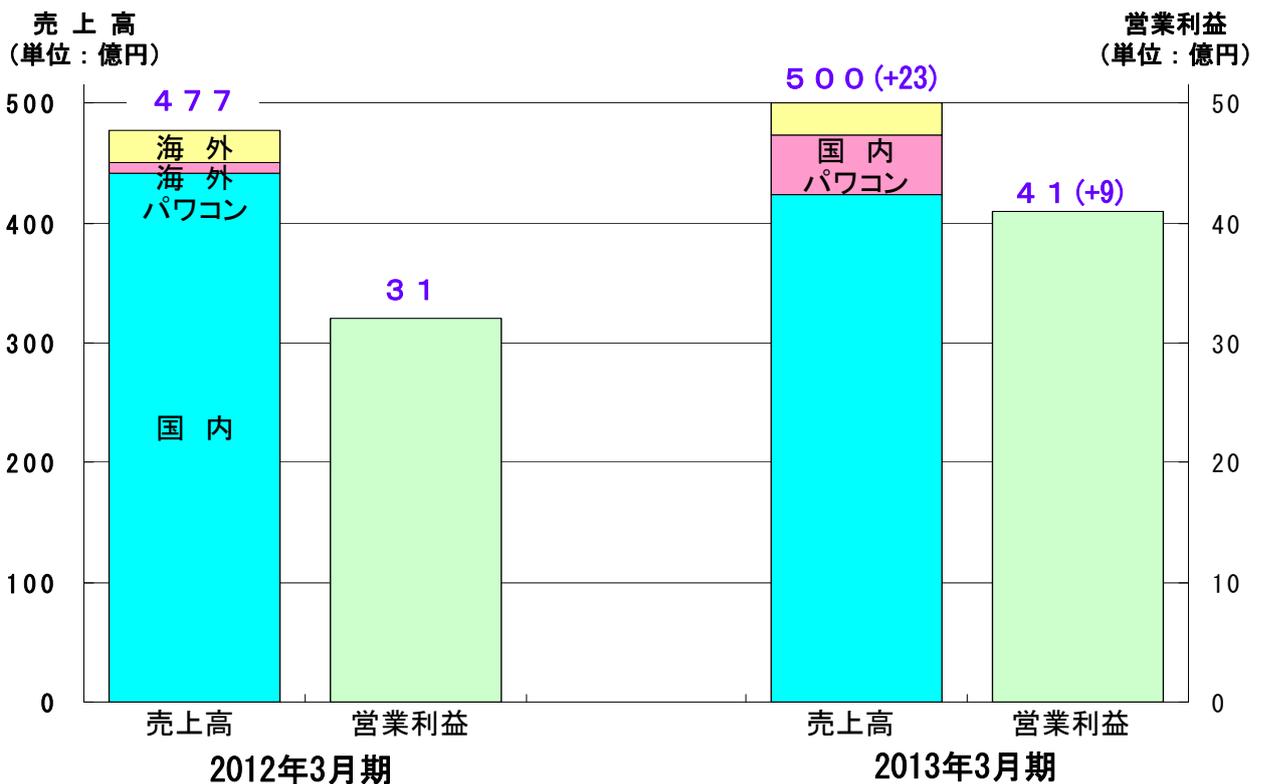
※2. 研究開発費：2012年3月期26億円→2013年3月期28億円

※3. 為替レート：2012年3月期平均79円/ドル⇒2013年3月期平均83円/ドル、1円/ドル当りの利益影響額 約1億円

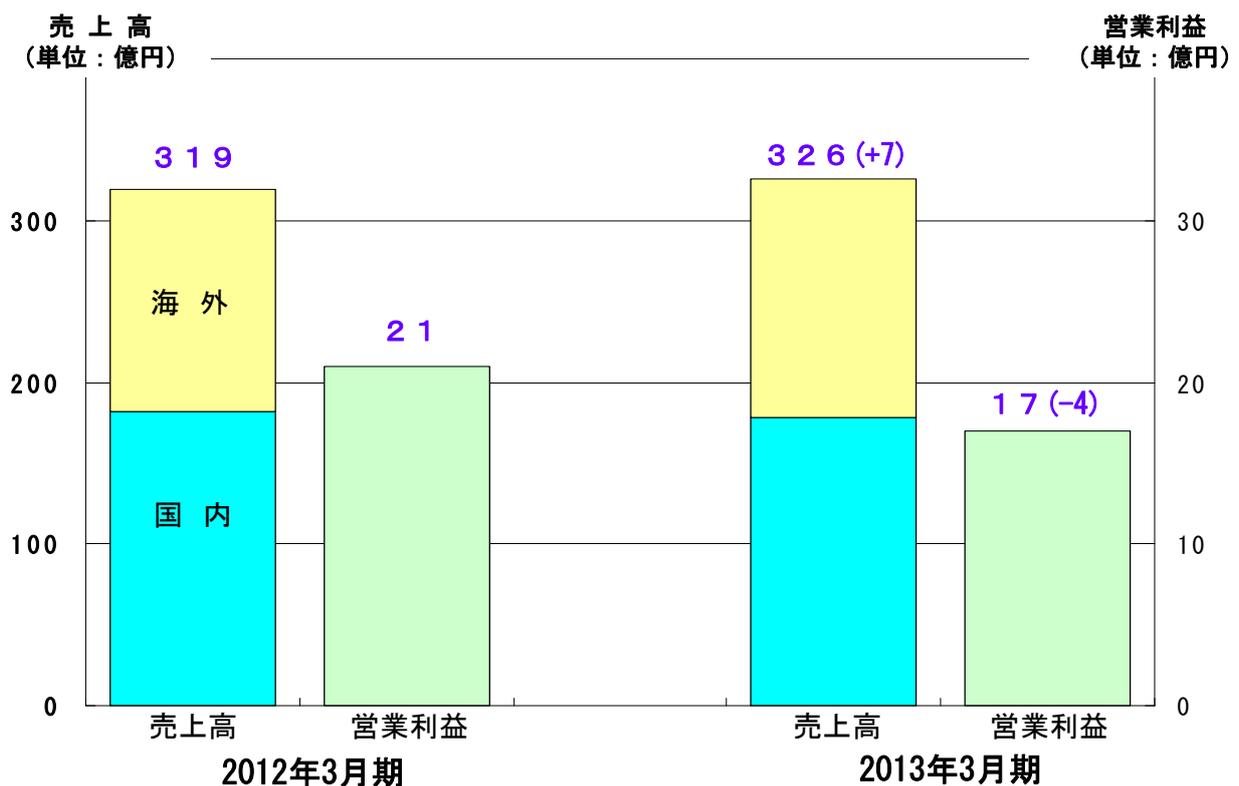
DAIHEN

P4

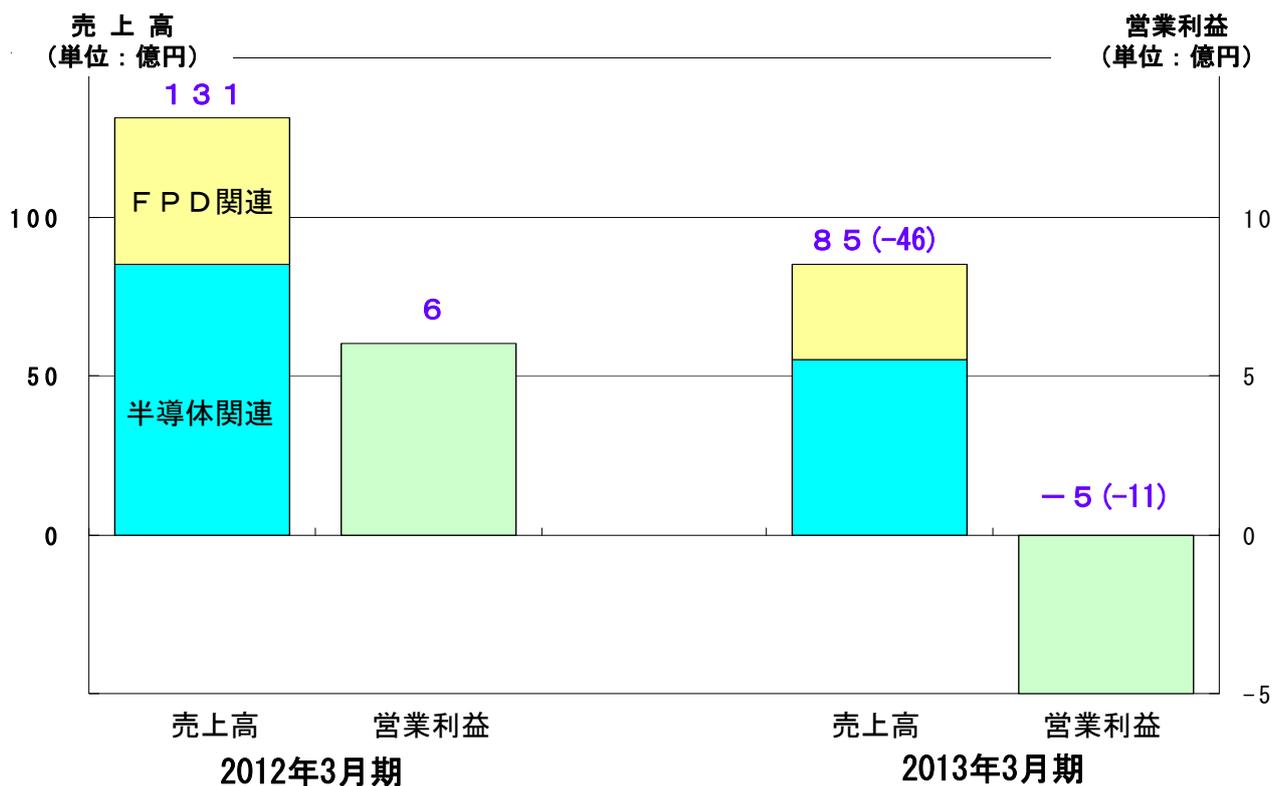
セグメント情報（電力機器）



セグメント情報（溶接メカトロ）



セグメント情報（半導体機器）



※ () 内の数値は前年度比増減額



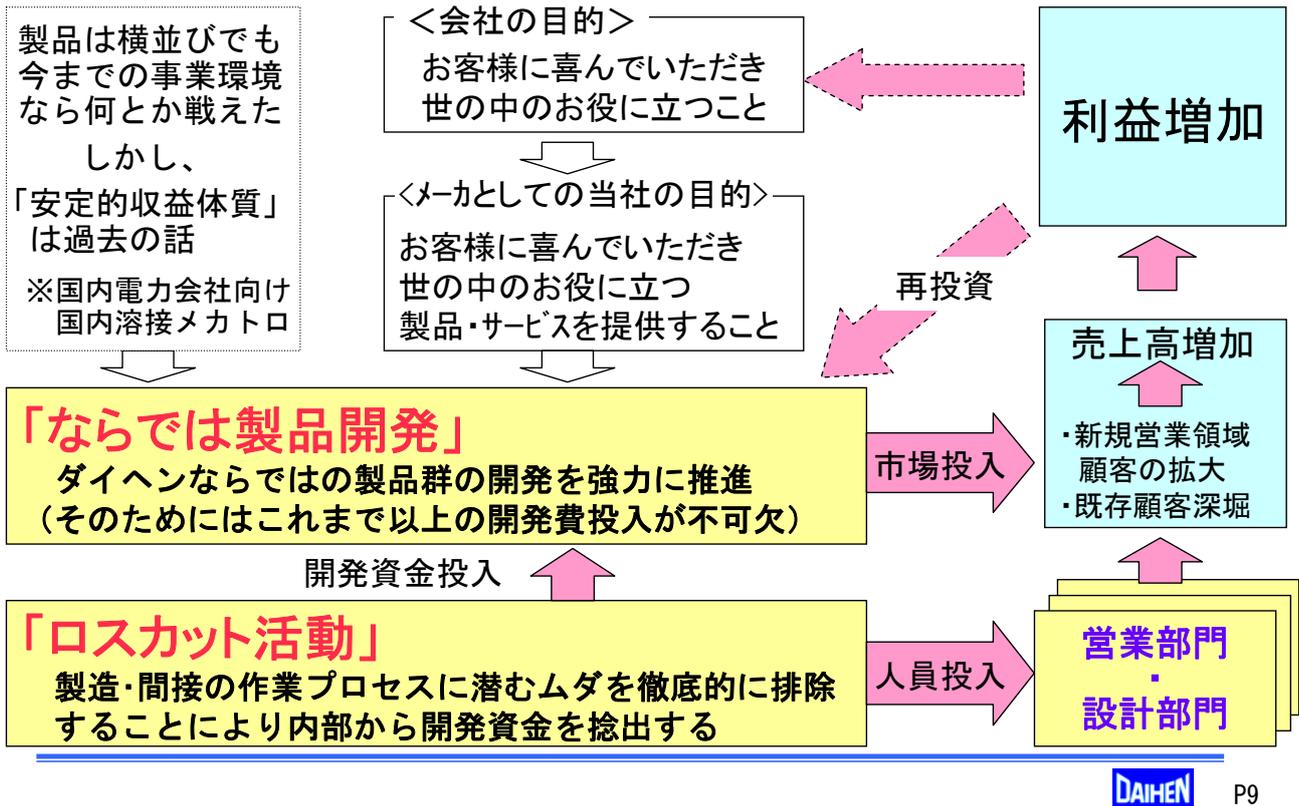
P7

中期的な経営の取り組み方針と
2013年3月期の成果並びに2014年3月期の課題



P8

2012～14年度中計<DAIHEN Value2014>の骨子



『ならでは製品』開発の視点と成長・重点分野

(1) 『ならでは製品』開発の4つの視点

- ①顧客の価値づくりへの最大貢献
- ②誇りとする保有技術を更に磨き前面に押し出した顧客への提案
- ③模倣できない商品企画とダントツ性能の追求
- ④既存概念にとらわれない新たな顧客サポートの創造

(2) 成長・重点分野

- 省エネルギー 省エネルギー-環境関連分野(再生可能エネルギー含む)
- スマートグリッド スマートグリッド分野
- 新興国 新興国関連(インフラ整備, 人手不足対応, 等)
- 省人化 省人化関連分野
- Big Data/クラウド/スマートフォン等関連分野

「ならでは製品」の開発①

～太陽光発電分野向け新製品の開発と販売拡大～

- ・ 2012年5月に**太陽光発電用変電設備パッケージ「DISOLA PACK」**を発売



<DISOLA PACK>

- ・ 2012年10月に**業界最高水準の電力変換効率98.4%のパワーコンディショナー500kW機**を市場投入。2017年度のFRT基準を先行搭載



<パワーコンディショナー500kW機>

⇒2012年度の再生可能エネルギー関連の売上高50億円（前期比約5倍）

⇒2013年度の売上高目標100億円超

※生産能力を年間1,000MW（従来比1.7倍）に増強

※京都大学、長岡科学技術大学との共同研究テーマが科学技術振興機構のCRESTテーマとして採択された

「ならでは製品」の開発②

～溶接工不足の解消に役立つロボット開発と東南アジアでの事業強化～

- ・ **新興国**では、旺盛な需要がある一方で、**溶接工不足**が顕著な状況
- ・ 「**アルメガフレンドリーシリーズ**」の特徴である「**簡単操作**」は溶接工不足の解消に役立つ
- ・ 当期は、建設機械・鉄骨・鉄道車両等向けの**厚板高能率アーク溶接ロボットパッケージ**を開発・市場投入
- ・ 東南アジアでは、タイ拠点を中心に充実した販売網を有する。当期は**インドネシアに販売子会社を設立し、販売力強化**を図った
- ・ その結果、世界経済が低迷する中でも、溶接メカトロ事業の**アジア新興国向け販売は前期比約4割増**となった
- ・ 2013年度は製品力と販売網を活かし、**東南アジアで多数予定されている自動車関連の設備投資案件の受注獲得を目指す**



<厚板向け高能率アーク溶接ロボットパッケージ>

「ならでは製品」の開発③

～最先端プロセス分野向け高周波電源システムの市場投入～

- ・半導体の微細化・3次元化・大口径化といった最先端プロセスの実現に必要な高周波電源AVANCERシリーズのラインアップ強化を図った
- ・また、スタンフォード大学にも認められたRFセンサー※を活用したViphi Analyzerを開発・市場投入した
- ・Viphi Analyzerは高周波の電圧、電流、位相の状態を高精度にモニタリングすることが可能であり、半導体製造装置の電源にモニタリング情報をフィードバックすることで、装置の性能向上（より微細な加工、歩留り向上）が図られる



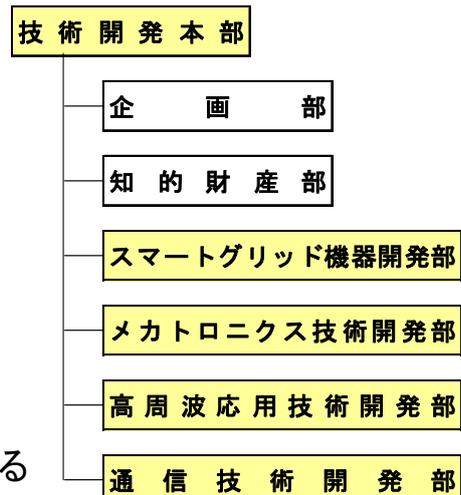
<半導体製造装置用RFセンサー
Viphi Analyzer>

※RFセンサーは様々な用途に転用可能で、今後、電力機器・溶接メカトロにおいて製品開発の武器となる

「ならでは製品」の開発④

～開発体制の強化(2013年4月1日付 組織変更)～

- ・4月1日付にて組織改正を実施
- ・技術・製品開発の実行強化のため「技術開発本部」を設置
- ・「技術開発本部」には、重要開発テーマを推進する4つの開発部を設置し、事業部が必要とする技術の開発ならびに、新規事業に繋がる新たな技術の開発を推進する
- ・外部機関（大学・研究所）の活用や、他社技術の譲受や共同開発を積極的に行い、開発の質向上とスピードをアップを図る



『ならでは製品』の販売状況(2013/3期実績)

①デジタルアーク溶接機『Welbeeインバータシリーズ』

②アーク溶接ロボット『アルメガフレンドリーシリーズ』

③最先端プロセス向け高効率高周波電源システム

④新型500kwパワーコンディショナー

⑤太陽光発電用システム『ディソラパック』

2013/3期 「ならでは製品」販売実績 約60億円

『ならでは製品』の販売状況(2014/3期予想)

①溶接機関連

②アーク溶接ロボット関連 (2テーマ)

③高周波電源システム関連 (2テーマ)

④新型500kwパワーコンディショナー

⑤太陽光発電用システム『ディソラパック』

・その他18テーマ

2014/3期 販売予想 150億円超



2015/3期(中計最終年度) 200億円超

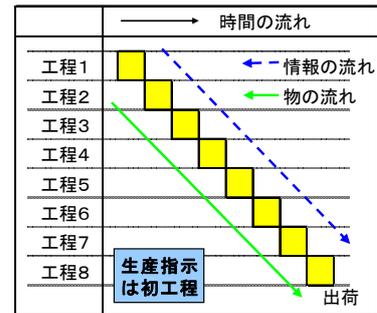
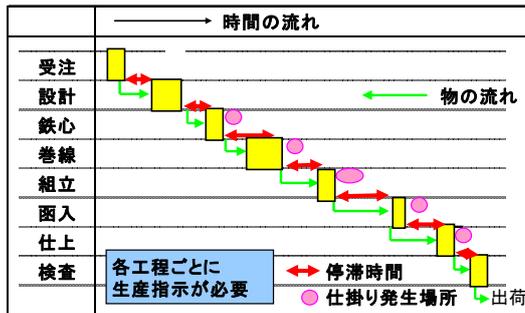
「ロスカット活動」の取組みの基本的な考え方

◇コンセプト：業務プロセス全体に潜む「見えないロス」を徹底的にカットすることで、大幅なリードタイム短縮と生産性向上を実現する
⇒「ロスカット活動」（コンサルタント活用、IE手法等を駆使）

◇目標水準：リードタイム半減、生産性20%向上

◇業務プロセス別の着眼点

- ・生産業務：精緻な生産計画に基づく、淀みのない業務のしくみ構築（「一気通貫生産方式」）⇒工程間の待ち時間、仕掛管理の手間を排除
 <従来の生産方式(プッシュ型)>



- ・設計業務：作り易い設計、調達し易い設計という着眼で徹底的に分析し、生産性向上・L/T短縮・材料費低減を図る

「ロスカット活動」の2013年3月期成果と2014年3月期目標

◇ 2013年3月期の成果<2011/3期との比較>

・生産性向上による間接費の低減

… 一気通貫生産方式導入、作りやすい設計による工数削減効果、等



製造間接費(超勤・人材派遣減) 約5億円低減

・作り易さ・標準化のための設計変更による部材費の低減

- ・特殊仕様部材廃止、汎用部材採用
- ・外注先の工程分析→設計見直し
- ・標準設計化
- ・その他海外拠点活用、等



部材費 約15億円低減

◇ 2014年3月期の追加施策

- ・生産設備の自動化推進 (<投資額10億円>)
- ・海外生産拠点の生産性向上

◇損益計算書上の成果の拡大 (成果額は11/3期との比較)

・12/3期 4億円 ⇒ 13/3期 20億円 ⇒ 14/3期(目標) 30億円
 (売上高比率) 0.4% 2.2% 3.1%

「ならでは製品」の開発強化と 「ロスカット活動」第2ステップとしての生産自動化投資

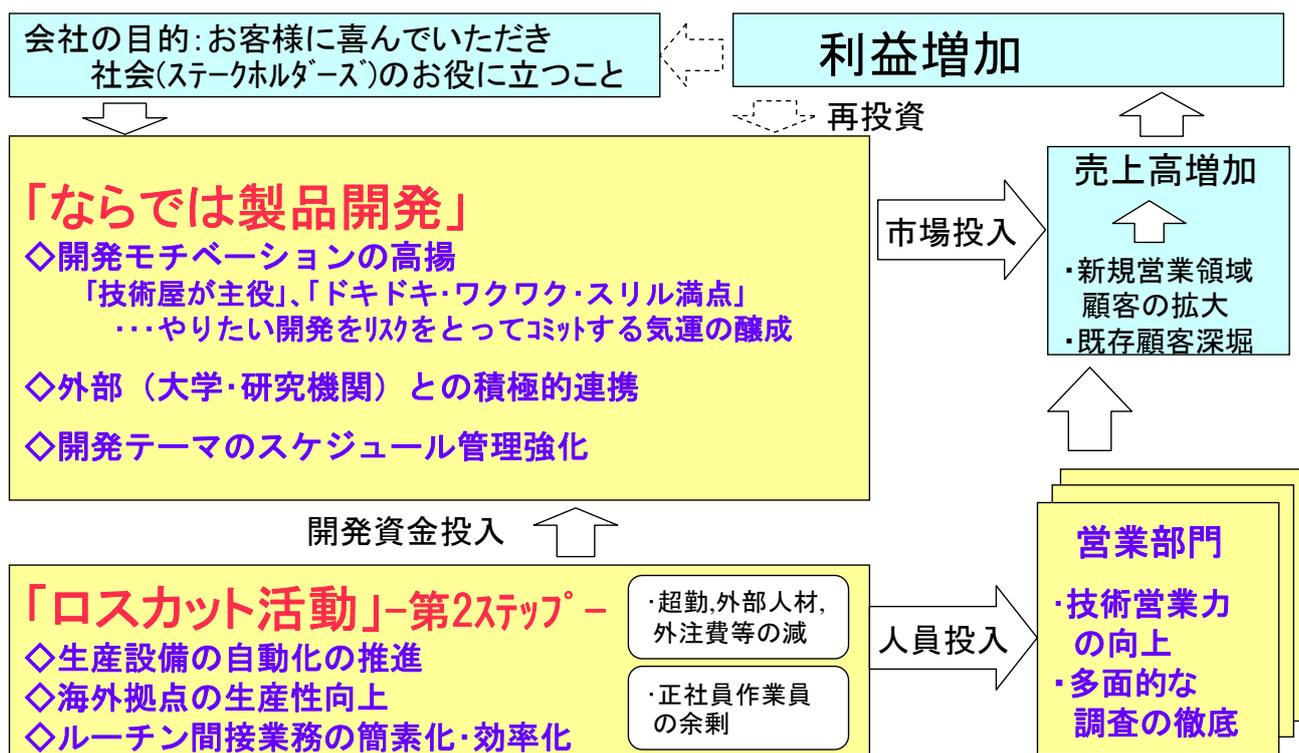
(単位:億円)

	2012年3月期 実績	2013年3月期 実績	2014年3月期 予想
研究開発費	26	28(前年比+2)	33(前年比+5)※1
設備投資額	37	37	40 ※2
減価償却費	41	40	42

※1. 「ならでは製品」開発のため研究開発費投資を強化する

※2. 2014年3月期の設備投資額は生産自動化関連投資 約10億円を含む

2012～14年度中計<DAIHEN Value2014>をベースに 2013年度(2014/3期)に取り組むこと



2014年3月期（2013年4月～2014年3月）

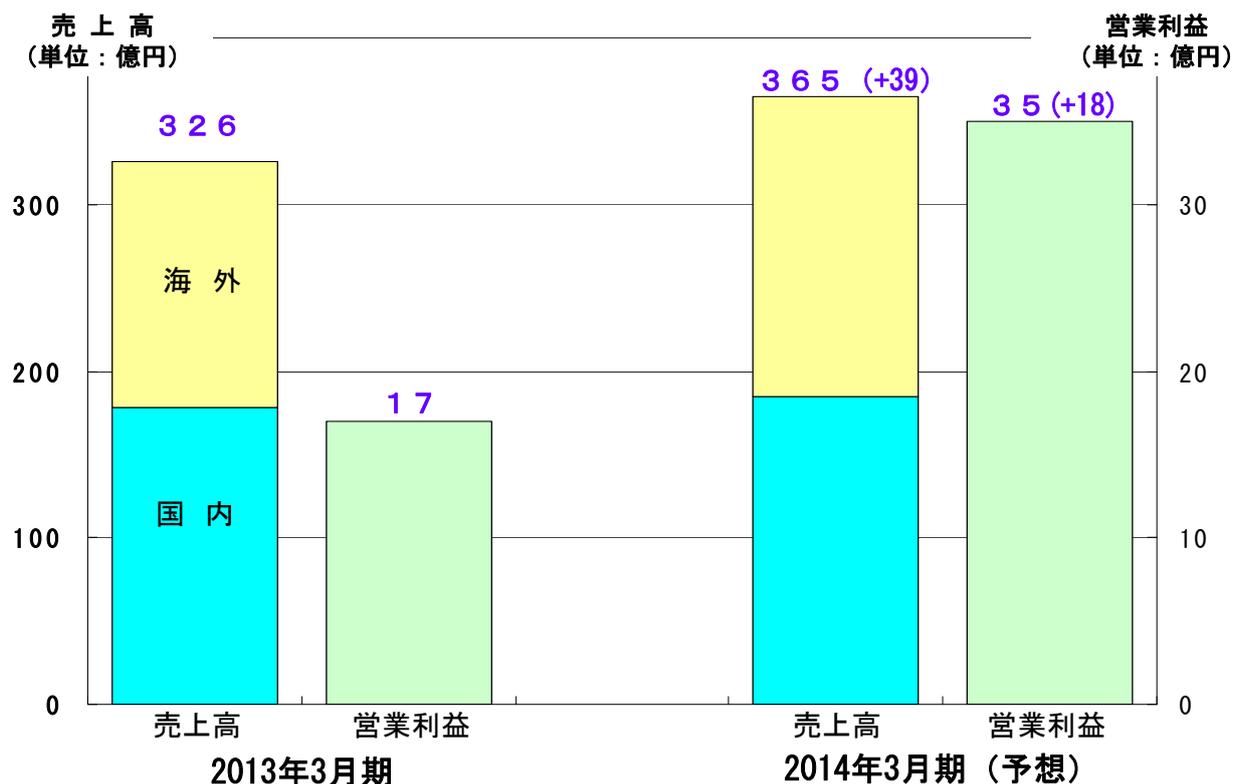
【業績予想】

次期業績予想

（単位：億円）

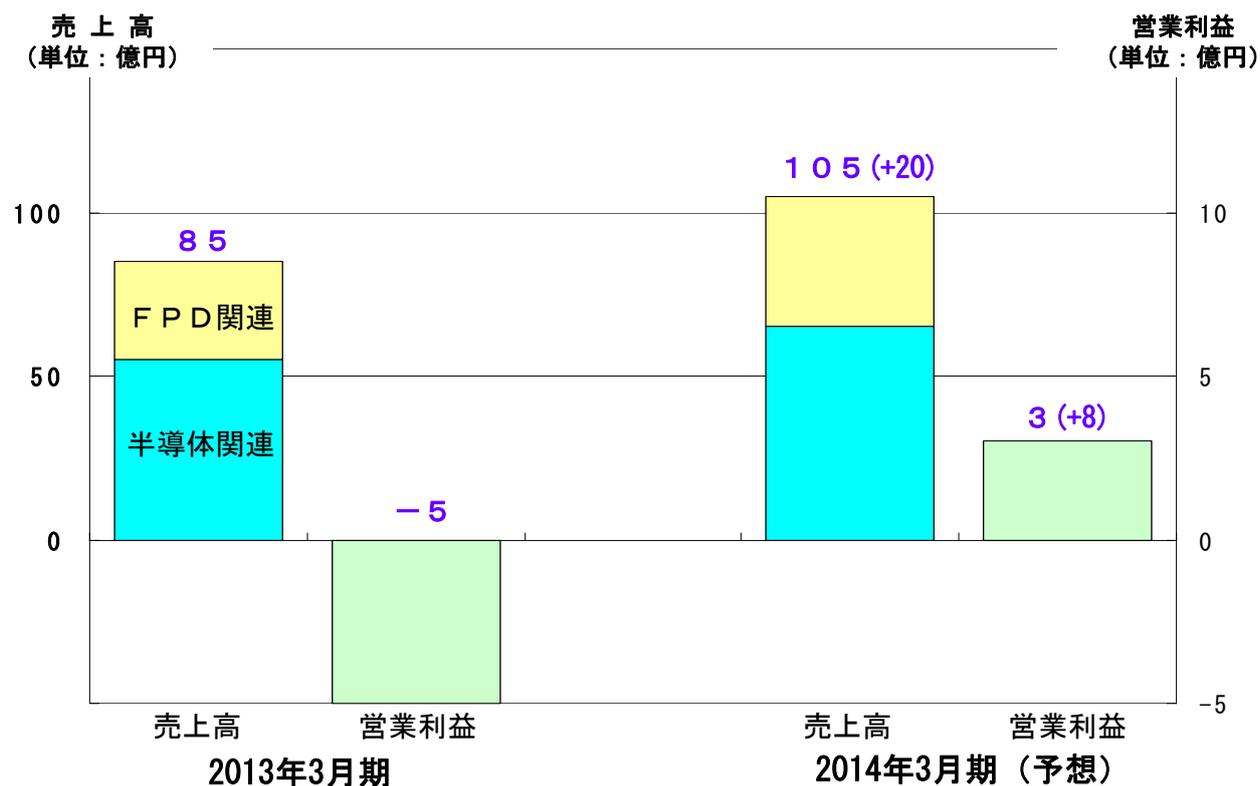
	2013年3月期		2014年3月期		前年度比	
	実績		予想		増減率	
売上高	914		970		+56	+6.2%
電力機器	500		500		0	0.0%
溶接メカトロ	326		365		+39	+11.9%
半導体機器	85		105		+20	+23.2%
営業利益	3.3%	30	4.6%	45	+15	+50.8%
経常利益	4.0%	36	4.6%	45	+9	+23.6%
当期純利益	2.6%	23	3.1%	30	+7	+28.4%

次期業績予想（溶接メカトロ）

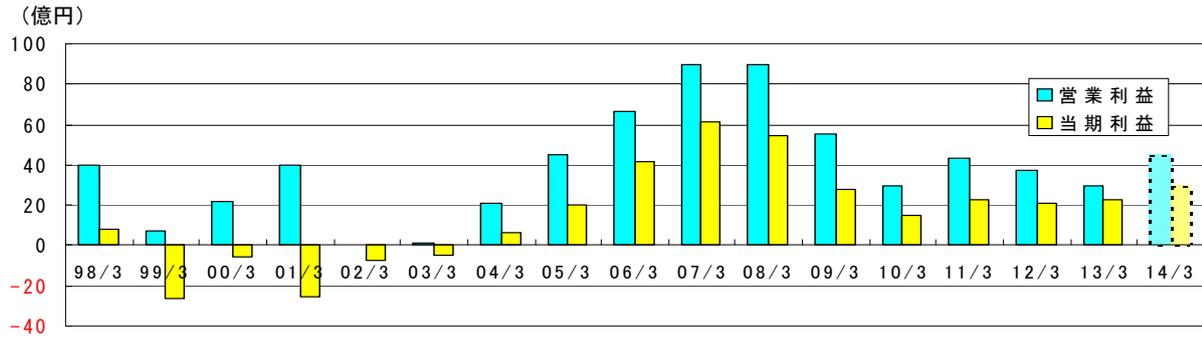


※ () 内の数値は前年度比増減額

次期業績予想（半導体機器）



※ () 内の数値は前年度比増減額



結果として直近10年間平均の配当性向は約30%



方針達成の推進力・カギとなるのはやはり一人ひとりの「社員」!

- ・ 会社はある人が一念発起して設立し、その志・会社の目的・方針に賛同した仲間のことを「社員」という
- ・ ところが、上司から指示された仕事や定型・反復業務のみに埋没しがち（これでは作業者）
- ・ そのため、毎年度はじめに会社の目的・中期方針・年度方針等を国内16拠点(80職場)、海外14拠点を廻り、全員に直接説明している
- ・ 一人ひとりが「社員」としての自覚を持ち、方針に対する自分の役割・テーマを設定し勉強して、「よい仕事」で貢献し、評価され、やりがいに繋げていくことが重要
- ・ 今年の年頭のメッセージは、「心機一転、勉強しよう」

将来予想に関する注意点

- ・本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し等の将来に関する記述が含まれております。
これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報を基礎とした判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績と大きく異なる可能性があります。
- ・なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は 多数あり、以下のようなものが含まれます。
 - 主要市場における経済情勢及び需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料価格の相場変動
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化